

【25.1】

(1) $110101_{(2)} \times 1011_{(2)}$ の結果を 8 進表記して答えよ.

(2) 正整数 x が 2 進表記されているとき, それを右から 3 桁ずつ区切り, 10 進表記で各区切りの表す数 y_0, y_1, \dots, y_n を考える. これらの和 $y_0 + y_1 + \dots + y_n$ が 7 で割り切れるとき, x は 7 で割り切れることを示せ.

【解答】

(1) 2 進数のまま掛け算をして,

$$110101_{(2)} \times 1011_{(2)} = 1001000111_{(2)}$$

右辺を末位から 3 桁ずつ区切って,

$$1_{(2)} | 001_{(2)} | 000_{(2)} | 111_{(2)} = 1107_{(8)}$$

(2) x の 2 進表記を $a_m a_{m-1} \dots a_1 a_0$ で表す. 即ち,

$$x = a_m \times 2^m + a_{m-1} \times 2^{m-1} + \dots + a_1 \times 2 + a_0 \quad (a_k = 0 \vee a_k = 1 \quad (0 \leq k \leq m)) \quad \dots\dots(1.1)$$

(1.1) の右辺を末項から 3 項ずつまとめて,

$$x = (a_2 \times 2^2 + a_1 \times 2 + a_0) + (a_5 \times 2^2 + a_4 \times 2 + a_3) \times 2^3 + \dots \\ \dots + (a_{3k+2} \times 2^2 + a_{3k+1} \times 2 + a_{3k}) \times 2^{3k} + \dots \quad \dots\dots(1.2)$$

題意より,

$$a_{3k+2} \times 2^2 + a_{3k+1} \times 2 + a_{3k} = y_k \quad \dots\dots(1.3)$$

と表せ, 更に,

$$000_{(2)} = 0, 001_{(2)} = 1, 010_{(2)} = 2, \dots\dots, 111_{(2)} = 7 \quad \dots\dots(1.4)$$

であるから, 各 y_k は 0, 1, 2, \dots , 7 の 8 種類の 10 進数を表す.

従って, (1.2) の右辺は,

$$x = y_0 + y_1 \times 8 + y_2 \times 8^2 + \dots + y_n \times 8^n \quad (y_k = 0, 1, \dots, 7 \quad (k = 0, 1, \dots, n)) \quad \dots\dots(1.5)$$

と書き換えられるので, (1.5) の右辺を module 7 で計算して,

$$x = y_0 + y_1 \times (7+1) + y_2 \times (7+1)^2 + \dots + y_n \times (7+1)^n \equiv y_0 + y_1 + y_2 + \dots + y_n \pmod{7} \quad \dots\dots(1.6)$$

即ち, $y_0 + y_1 + \dots + y_n$ が 7 で割り切れれば, x 自身も 7 で割り切れる.

[Note]

- 10進数 $a_n a_{n-1} \cdots a_0$ が9で割り切れるか否かを判定するのに、 $a_n + a_{n-1} + \cdots + a_0$ を9で割って調べる方法がある。即ち、

$$\begin{aligned} a_n a_{n-1} \cdots a_0 &= a_n \times 10^n + a_{n-1} \times 10^{n-1} + \cdots + a_1 \times 10 + a_0 \\ &= a_n \times (9+1)^n + a_{n-1} \times (9+1)^{n-1} + \cdots + a_1 \times (9+1) + a_0 \\ &\equiv a_n + a_{n-1} + \cdots + a_0 \pmod{9} \end{aligned}$$

従って、 $a_n + a_{n-1} + \cdots + a_0$ が9で割り切れれば、 $a_n a_{n-1} \cdots a_0$ も9で割り切れる。

また、二項定理

$$10^n = (11-1)^n = {}_n C_n \cdot 11^n + {}_n C_{n-1} \cdot 11^{n-1}(-1) + \cdots + {}_n C_1 \cdot 11(-1)^{n-1} + {}_n C_0(-1)^n \equiv (-1)^n \pmod{11}$$

の成立に注意すれば、

$$\begin{aligned} a_n a_{n-1} \cdots a_0 &= a_n \times 10^n + a_{n-1} \times 10^{n-1} + \cdots + a_1 \times 10 + a_0 \\ &= a_n \times (11-1)^n + a_{n-1} \times (11-1)^{n-1} + \cdots + a_1 \times (11-1) + a_0 \\ &\equiv (-1)^n \{a_n - a_{n-1} + \cdots + (-1)^{n-1} a_1 + (-1)^n a_0\} \pmod{11} \end{aligned}$$

により、 $a_n - a_{n-1} + \cdots + (-1)^n a_0$ が11で割り切れれば、 $a_n a_{n-1} \cdots a_0$ も11で割り切れることになる。

- 2進数を右から3桁ずつ区切って10進変換すると8進数に書き換えられる。

同様に、2進数を右から4桁ずつ区切って下表のように対応させると16進数に変換できる。

2進数	0000	0001	...	1001	1010	1011	1100	1101	1110	1111
16進数	0	1	...	9	A	B	C	D	E	F

【25.2】

α_1, α_2 は正の無理数で

$$\frac{1}{\alpha_1} + \frac{1}{\alpha_2} = 1 \quad \dots\dots(2.1)$$

を満たすものとする。

(1) 任意の正整数 n に対して、

$$\left[\frac{n}{\alpha_1} \right] + \left[\frac{n}{\alpha_2} \right] = n - 1 \quad \dots\dots(2.2)$$

が成り立つことを示せ。

(2) 2つの系列の整数

$$\begin{cases} [\alpha_1], [2\alpha_1], [3\alpha_1], \dots \\ [\alpha_2], [2\alpha_2], [3\alpha_2], \dots \end{cases} \quad \dots\dots(2.3)$$

には、すべての正整数が漏れなく、重複なく現れることを示せ。

【解答】

(1) k_1, k_2 を正整数として、

$$\left[\frac{n}{\alpha_1} \right] = k_1, \quad \left[\frac{n}{\alpha_2} \right] = k_2 \quad \dots\dots(2.4)$$

と表せば、 $\frac{n}{\alpha_1}, \frac{n}{\alpha_2}$ が無理数であることに注意して、

$$k_1 < \frac{n}{\alpha_1} < k_1 + 1 \wedge k_2 < \frac{n}{\alpha_2} < k_2 + 1 \iff \frac{n}{\alpha_1} - 1 < k_1 < \frac{n}{\alpha_1} \wedge \frac{n}{\alpha_2} - 1 < k_2 < \frac{n}{\alpha_2} \quad \dots\dots(2.5)$$

(2.5) の辺々を加えて、

$$\begin{aligned} \left(\frac{1}{\alpha_1} + \frac{1}{\alpha_2} \right) n - 2 < k_1 + k_2 < \left(\frac{1}{\alpha_1} + \frac{1}{\alpha_2} \right) n &\iff n - 2 < k_1 + k_2 < n \quad (\because (2.1)) \\ &\iff \left[\frac{n}{\alpha_1} \right] + \left[\frac{n}{\alpha_2} \right] = n - 1 \quad (\because (2.4)) \quad \dots\dots(2.2) \end{aligned}$$

(2) (2.1) より、 $\alpha_1 > 1, \alpha_2 > 1$ であるから、

$$\begin{cases} [\alpha_1] < [2\alpha_1] < [3\alpha_1] < \dots \\ [\alpha_2] < [2\alpha_2] < [3\alpha_2] < \dots \end{cases} \quad \dots\dots(2.3)$$

において、整数列 $\{[m_1\alpha_1]\}$ に重複する整数はなく、整数列 $\{[m_2\alpha_2]\}$ に重複する整数はない。

更に、任意の番号 m_1, m_2 に対して、

$$[m_1\alpha_1] \neq [m_2\alpha_2] \quad \dots\dots(2.6)$$

何故なら、

$$[m_1\alpha_1] = [m_2\alpha_2] = k \quad (k: \text{正整数}) \quad \dots\dots(2.7)$$

なる正整数 k の存在を仮定すると、

$$k < m_1\alpha_1 < k + 1 \wedge k < m_2\alpha_2 < k + 1 \iff \frac{m_1}{k+1} < \frac{1}{\alpha_1} < \frac{m_1}{k} \wedge \frac{m_2}{k+1} < \frac{1}{\alpha_2} < \frac{m_2}{k} \quad \dots\dots(2.8)$$

(2.8) の辺々を加えて、

$$\frac{m_1 + m_2}{k+1} < \frac{1}{\alpha_1} + \frac{1}{\alpha_2} < \frac{m_1 + m_2}{k} \iff k < m_1 + m_2 < k + 1 \quad (\because (2.1)) \quad \dots\dots(2.9)$$

(2.9) は $k, k + 1$ が連続整数であることに矛盾なので、(2.6) の成立が示される。

一方, 区間 $(0, n)$ には $[m_1\alpha_1], [m_2\alpha_2]$ の形の整数がそれぞれ

$$\left[\frac{n}{\alpha_1} \right], \left[\frac{n}{\alpha_2} \right] \quad \dots\dots(2.10)$$

個ずつ存在し, (1)の結果より合計

$$\left[\frac{n}{\alpha_1} \right] + \left[\frac{n}{\alpha_2} \right] = n - 1 \quad \dots\dots(2.2)$$

個存在するので, Dirichlet の原理により,

区間 $[1, n - 1]$ に漏れなく, 重複なく $[m_1\alpha_1], [m_2\alpha_2]$ の形の正整数が存在することになる.

ここで, n は任意の正整数にとれるので題意は示された.

【25.3】

正整数 n の関数 $a(n)$, $b(n)$ を次のように定義する.

$$a(n) = (n \text{ を } 7 \text{ で割った余り}), \quad b(n) = 2a(\sum_{k=1}^7 k^n)$$

- (1) すべての正整数 n に対して, $a(n^7) = a(n)$ であることを示せ.
 (2) 正整数 n を任意に 1 つ決めて $b(n)$ の値を計算せよ. この $b(n)$ の値を設問 (2) における得点とする.

【解答】

(1) $n \equiv k \pmod{7}$ ($k = 0, 1, 2, \dots, 6$) として,

$$a(k^7) = a(k) \quad (k = 0, 1, 2, \dots, 6) \quad \dots\dots(3.1)$$

を示せば十分である. ($\because a(n) = a(7m+k) = a(k)$ (m : 整数))

そこで, k^r ($k = 0, 1, \dots, 6$; $r = 1, 2, \dots, 7$) を 7 で割った余りを求める. (下表)

r									$\sum_{k=0}^6 k^r$	$a(\sum_{k=0}^6 k^r)$
1	k	0	1	2	3	4	5	6	21	0
2	k^2	0	1	4	2	2	4	1	14	0
3	k^3	0	1	1	6	1	6	6	21	0
4	k^4	0	1	2	4	4	2	1	14	0
5	k^5	0	1	4	5	2	3	6	21	0
6	k^6	0	1	1	1	1	1	1	6	6
7	k^7	0	1	2	3	4	5	6	21	0

表において, 第 1 行目と第 7 行目が一致するので, $k = 0, 1, 2, \dots, 6$ に対して, (3.1) が成り立つ.

(2) 表の最右列は, $r = 1, 2, \dots, 7$ に対する

$$a(\sum_{k=0}^6 k^r) = a(\sum_{k=1}^6 k^r) \quad \dots\dots(3.2)$$

の値を表すので, $r = 6$ として,

$$b(6) = 2 \times a(\sum_{k=1}^6 k^6) = 2 \times 6 = 12 \quad \dots\dots(3.3)$$

を得る. これがこの設問の最大得点である.

【Note】

説明するまでもないが, テーマは以下の Fermat の小定理である.

$$a^p \equiv a \pmod{p} \quad (a: \text{任意整数}, p: \text{素数})$$

【25.4】

複素数 z に対して、集合 A, B, C, D, S を次のように定義する。ただし、 \bar{z} は z の共役複素数を表す。

$$A = \left\{ z \mid \frac{z + \bar{z}}{\sqrt{2}} : \text{整数} \right\}, \quad B = \left\{ z \mid \frac{z + \bar{z}}{\sqrt{3}} : \text{整数} \right\}, \quad C = \left\{ z \mid \frac{z - \bar{z}}{\sqrt{2}\mathbf{i}} : \text{整数} \right\}, \quad D = \left\{ z \mid \frac{z - \bar{z}}{\sqrt{3}\mathbf{i}} : \text{整数} \right\},$$

$$S = (A \cap C) \cup (A \cap D) \cup (B \cap C) \cup (B \cap D)$$

集合 S から 17 個の複素数を任意に選び、その集合を T とする。

このとき、 T 中の 2 数で、その平均値が S の要素になっているものが必ず存在することを示せ。

【解答】

x, y を実数として、 $z = x + \mathbf{i}y$ と表す。

$$\left\{ \begin{array}{l} \frac{z + \bar{z}}{\sqrt{2}} = \sqrt{2}x \text{ が整数のとき、任意の整数 } m \text{ に対して、} x = \frac{\sqrt{2}m}{2} \\ \frac{z + \bar{z}}{\sqrt{3}} = \frac{2x}{\sqrt{3}} \text{ が整数のとき、任意の整数 } m \text{ に対して、} x = \frac{\sqrt{3}m}{2} \\ \frac{z - \bar{z}}{\sqrt{2}\mathbf{i}} = \sqrt{2}y \text{ が整数のとき、任意の整数 } n \text{ に対して、} y = \frac{\sqrt{2}n}{2} \\ \frac{z - \bar{z}}{\sqrt{3}\mathbf{i}} = \frac{2y}{\sqrt{3}} \text{ が整数のとき、任意の整数 } n \text{ に対して、} y = \frac{\sqrt{3}n}{2} \end{array} \right.$$

そこで、

$$A \cap C = S_1 = \left\{ z \mid z = \frac{\sqrt{2}m + \sqrt{2}n\mathbf{i}}{2} \quad (m, n : \text{整数}) \right\}, \quad A \cap D = S_2 = \left\{ z \mid z = \frac{\sqrt{2}m + \sqrt{3}n\mathbf{i}}{2} \quad (m, n : \text{整数}) \right\}$$

$$B \cap C = S_3 = \left\{ z \mid z = \frac{\sqrt{3}m + \sqrt{2}n\mathbf{i}}{2} \quad (m, n : \text{整数}) \right\}, \quad B \cap D = S_4 = \left\{ z \mid z = \frac{\sqrt{3}m + \sqrt{3}n\mathbf{i}}{2} \quad (m, n : \text{整数}) \right\}$$

と置けば、 $S = \bigcup_{k=1}^4 S_k$ である。

この集合 S から任意に 17 個の複素数を選べば、その内の少なくとも 5 個は同一の集合 S_k に含まれる。

この 5 個 (またはそれ以上) の複素数について、その実部と虚部を表す整数の組 (m, n) の偶奇で、

$$(\text{even}, \text{even}), \quad (\text{even}, \text{odd}), \quad (\text{odd}, \text{even}), \quad (\text{odd}, \text{odd})$$

の 4 通りに分類すると、5 個 (またはそれ以上) の複素数の少なくとも 2 個は上記分類の同一組に属する。

その少なくとも 2 個の複素数 z_1, z_2 の実部と虚部の整数部分を $(m_1, n_1), (m_2, n_2)$ で表せば、

$$z_3 = \frac{z_1 + z_2}{2} = \frac{\frac{m_1 + m_2}{2} \sqrt{r} + \mathbf{i} \frac{n_1 + n_2}{2} \sqrt{s}}{2} = \frac{m_3 \sqrt{r} + \mathbf{i} n_3 \sqrt{s}}{2} \quad ((r=2, 3) \wedge (s=2, 3))$$

より、 m_3, n_3 は整数であるから、 z_1, z_2 の平均値 z_3 は z_1, z_2 と同一の集合 S_k に属する。

$$\therefore z_3 \in S_k \subset S \quad (k=1, 2, 3, 4)$$